



KENMEI ACADEMY

2018年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

平成 30 年度(2018 年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1, 本園の教育目標

—豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—

カトリック精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2, 本年度、重点的に取り組む目標・計画

のびのび元気に過ごし、自ら進んで自分でやってみる子ども

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1, 宗教教育 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	<ul style="list-style-type: none">・友だちを大切にすることを日々の実体験や視聴覚教材を使って知らせる。・朝や帰りの祈りなど、毎日取り組んだり、自分の言葉で共同祈願を考える機会を設ける。
2, 自主自立の保育 ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none">・個々の様子を観察し、子どもが自分でできるように援助をした。・じっくりと活動に取り組む時間を確保したり環境の整備を行ったことで、最後まで取り組む姿勢が身に付き、達成感を味わう姿が見られた。
3, 未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行 ○子育て支援について積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・未就園児クラスの保護者には子育てサポートを行い、満3歳児の入園時には事前に導入保育を行う。・満3歳児を受け入れることによって、子どもたちの中に新しく加わった子どもに対する気遣いや優しさが芽生えた。

<p>4, 英語教育を通して国際的関心を養う。 ○英語に親しみ, 楽しみながら学んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように, 教材の色彩やイラストなど視覚からも学べるようにしたことで, 子どもたちはごく自然に英語に慣れる環境となったようだ。
<p>5, 教員は資質を向上させるため, 研鑽する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンテッソーリ教育の実践者である講師を招き, 研修を行っている。 ・すべての教員が子どもたちに, 教具の提供ができるように学び合っている。 ・毎日の職員終礼で, 子どもの様子振り返り, 共有し, 保育者としての観察力を高めている。
<p>6, 保護者への対応 ○適切で正確な情報を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日々の活動を観察し, 連絡帳で子どもの成長や日々のエピソードなどを報告し保護者との情報交換をできるようにした。 ・保護者からの相談があった場合には, 迅速に対応する。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

基本的な生活習慣の確立を目指し, 日々の保育内容を見直してカリキュラムを立てたことで, 子どもは身の回りのことを進んでしようとする姿が見られた。

教育要領の改訂に伴い, 幼小連携の在り方について見直し, 子どもたちが段差なく小学校生活が送れるように, 児童や小学校教諭と園児がかかわる機会を設けた。また, 小学校教育と幼児教育の視点を取り入れた連携計画を立て, 主体的・対話的深い学びのある学習方法を行い, 小学校生活に円滑に移行していくための準備につながった。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>自主自立の保育の継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが興味をもち, 様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育てる。 ・個々の記録を取り, 子ども一人ひとりの成長に沿ったきめ細かい指導を行う。
<p>保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長や保育の取り組み, 預かり保育の様子などを発信する。
<p>体力の増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育専科の教員による指導を実施し, 運動遊びをさらに取り入れることで体を動かす機会を作る。
<p>宗教教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け, いたわりの気持ちをもつ。 ・創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて, 「私にできるよいこと」を考え, 実践する。

6 学校関係者の評価

別紙の通り

7 学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。

2018年度 賢明学院小学校 自己評価の結果報告書

学 校 名：賢明学院小学校

評価責任者：校長 中原 道夫

2019年2月23日 報告

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	宗教教育の実践	①祈りを通じて神への畏敬の念を養う。	①日々の学校生活の中で、朝や帰りのお祈りを心静かに行えるようにする。ミサや祈りの集いを通じて神様への畏敬の念が持てるように指導する。	①毎日のお祈りを大切にしたい児童は、1~3年98%、4年90%、5年78%、6年89%であった。保護者の祈りや宗教教育に対する関心は高く97%。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 92%	①朝の放送でのお祈りや帰りのお祈りを心静かにおこなう。また、ミサや祈りの集いでは、神様への畏敬の念が持てるように今後も指導する。
		②創立者について学び、帰属意識を高める。	②宗教の時間や創立者の帰天ミサなど、繰り返し創立者について聞く機会を設け、理解を深める。また、宗教のカリキュラムに創立者についての単元を明記し、系統的に理解を深めていく。	②昨年度よりも、ミサ、集会、放送、授業等で創立者について話を聞く機会を増やした効果は出てきているので、さらに理解が深まるよう指導する。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 84%	②宗教の時間では、各学年でカリキュラムにそって系統的に理解を深める。祈りの集いやミサでは、建学の精神や創立者について話す機会を増やす。保護者会でも話す機会を設ける。
		③感謝と奉仕の精神を培う取り組みをする。(行事の計画案)	③奉仕の心で学校生活を送れるよう指導する。募金活動や施設訪問など、児童会やリヴィエジュニアの活動をさらに活発にし、奉仕の精神を育成する。	③進んでよいことをする児童は、1~4年で97%以上、5・6年は88%と多くの児童が奉仕活動を実践している。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 95%	③日常の係活動や当番活動で、奉仕の心で取り組むことができるよう指導する。募金活動や施設訪問等で児童会やリヴィエジュニアの活動を活発にし、奉仕の精神を育てる。
		④式典や行事を通じて宗教心を体験として学ぶ。	④高学年の児童の役割を明確にして主体的に関われるように指導する。	④集会や式典では、児童が活躍する場面を増やした。また、ミサや集いを大切にしている児童は、1~4・6年97%以上、5年78%であった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 90%	④式典や行事ごとに高学年児童の役割を決め、意欲的に取り組めるよう指導する。
2	安心できる学級の実現	①楽しい学校生活を送れるように支援している。	①朝の会・帰りの会・掃除の時間など、児童が落ち着いて行動できる環境を設定し、充実した活動にする。	①今日あったトラブルを今日解決する早期解決を基本とした指導と児童の実態に合わせた担任裁量の指導が効果的であった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 94%	①毎日の朝の会・帰りの会の時間をきちんと確保し、落ち着いた雰囲気の中で実施できるよう今後も努める。
		②いじめの撲滅を目指した生活指導を行い、全教職員で取り組む。	②毎月、いじめ防止アンケートを実施し、児童の実態把握に努める。学級での些細な出来事を敏感に感じ取り、全教職員で迅速に対応する。他クラスの取り組みも共有し、自クラスの対応に生かす。保護者との連携を強める。	②事あるごとに、職員会議や朝礼等全教職員で連絡を密にし、話題を共有することで児童の様子がよくわかり、学年を超えて児童の指導にあたることができた。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 94%	②日常から児童一人ひとりをよく理解し、毎月のいじめアンケートから児童の実態を把握し、児童間の問題に対して迅速に対応し指導する。問題は、全教職員で共有する。
		③衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。 食に対する感謝の心を養うことができている。	③残食が多いことから、食べ物の好き嫌いがあることが予想される。保護者の満足度を調査し、改善する。 例 費用の適正さ、給食内容、衛生面の問題、子どもの好み等についてアンケートを実施する。	③児童へは好きなメニューのアンケートを実施し、メニューに活かした。保護者へのアンケート調査は、実施できなかったため、次年度は実施する。	◆目標到達度 80% ◆実際到達度 -	③食べ物を大切にする態度、作ってくれた人への感謝する気持ちと残食を減らす指導をする。保護者へはアンケート調査を実施し、その結果を踏まえメニュー等を改善する。

3	教師の指導力向上と授業改善	①国語・算数を中心とした授業の質が向上している。	①教員全員が授業を公開して教員同士が互いに授業力を高めることは、今後も継続する。その際、児童の視点に立った授業作りと教材研究の検討をする。	①授業を公開して教員同士が互いに授業力を高めあうことはできた。先生の話が分かりやすいと答えた児童は、93%であった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 93%	①全教員が授業を1回以上公開して、教員同士が互いに授業力を高めることは、今後も継続しておこなう。次期指導要領に即した教材研究に取り組む。
		②宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化している。	②宿題の出し方やノートの点検の仕方を教員同士が共有する。長期休暇中の宿題は、発達段階に合わせて適切な内容や分量とする。	②先生は宿題を丁寧に見てくれると答えた児童は96%、保護者98%。教員は86%だった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 96%	②宿題の提出の仕方やノートの点検の仕方を教員同士が共有することは継続し、更に学習習慣の基礎が身につく指導を検討する。
		③実用的英語の力を向上させる。	③学習としての英語のモジュール学習の内容や成果について検討を加える。英語の話す・聞く力を中心に、評価の規準を明確にし指導に当たる。	③英語で挨拶や簡単な会話ができると答えた児童は93%、保護者の評価は90%であった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 92%	③今年度の取り組みの反省をもとに、英語のモジュール学習の内容や成果についてさらに検討し、英語の話す・聞く・書く・読む力のレベルアップを図る。
		④情報機器を活用し、効果的な授業が展開されている。	④タブレットを活用した学習の方法だけでなく、効果について振り返る。プログラミング学習や、調べ学習などが容易にできるように試行しながら検討を重ねる。	④タブレットやプロジェクターを使った授業が分かりやすいと答えた児童は97%、保護者は95%。教員の86%がICT機器を活用した授業をおこなっている。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 96%	④タブレットを活用した授業の取り組みとプログラミング学習に対応した授業を実施する。
		⑤新指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標の達成に努めている。	⑤新指導要領に基づいた各教科のカリキュラムとそれを基に各学年の年間指導計画も作成した。今年度は、カリキュラムと学年の年間指導計画を照らし合わせて実践していく。	⑤新指導要領に関して情報を集め、理解に努めている教員は95%。新カリキュラムにあった授業に取り組むことができた。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 95%	⑤2020年度に次期指導要領が実施されるので、今年度のカリキュラムの反省を活かし、更に各教科とも目標の達成を目指した授業づくりができるよう校内研修を積極的におこなう。
		⑥児童自ら考え発言し、分かりやすい言葉で伝え合うことができる授業を行う。	⑥児童が失敗を恐れず自信を持って発表できるような学級づくりに努める。	⑥自分の意見を進んで発表している児童は全体で87%だが、5年は51%と低いので今後の指導を検討することが必要。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 87%	⑥自己と他者を認め、児童が失敗をしたり、間違えたりした発言があっても、互いに支えあう学級づくりに努める。
		⑦学級経営力向上のため、整理・整頓と朝の会・帰りの会の二点について指導力を高める。	⑦日頃から、靴箱、机やロッカーの持ち物の整理整頓、朝の会・帰りの会の内容が充実できるように指導する。	⑦身のまわりの整理整頓をしていると答えた児童は95%。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 95%	⑦日頃から整理・整頓の指導に努め、朝の会・帰りの会については、時間の確保と内容が充実するよう、更に検討する。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活 ＜基本的習慣を特に充実させる＞	①立ち止まって挨拶することを指導する。	①立ち止まって行う「賢明の挨拶」を徹底して指導する。(朝の校門、校内での挨拶)	①賢明の挨拶ができている児童は、1・2年99%、3・4年100%、5・6年93%。100%をめざす指導をする。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 97%	①朝や帰る時だけではなく、いつでもどこでも挨拶ができるよう指導する。児童会活動で挨拶運動が展開できるような取り組みをおこなう。
		②集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	②賢明の沈黙移動を実現するには、担任の指導によるところが大きい。教員間で指導方法を共有し、全学年で指導する。	②賢明の沈黙移動ができている児童は、1・2年89%、3・4年89%、5・6年74%。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 84%	②教室からの移動時には、静かに並び静かに移動することを徹底して指導する。「生活のきまり」(仮称)を新たに作成し、生活のルールを徹底させる。
		③通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	③通学の安全やマナーについて、全校集会や学年集会等で指導する。低学年は交通巡視員等の外部講師も招聘し、児童自ら交通安全を意識して登下校できるように指導を行う。	③安全に気を付け、マナーを守って登下校できている児童は、1・2年96%、3・4年95%、5・6年90%。	◆目標到達度 80% ◆実際到達度 94%	③児童自身が交通安全を意識したり、公共交通機関利用の仕方について理解を深めたり、学級や集会での指導の工夫を検討する。「生活のきまり」(仮称)を新たに作成し、生活のルールを徹底させる。

2018年度 自己評価の結果の報告書 (2019.5.25)

学 校 名：賢明学院中学高等学校

評価責任者：校長 大原 正義

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①BULLETIN（校内機関紙）やホームページがもっと読まれるように広報する。 ②行事を通して人間関係が深まるよう、教員が意識して指導する。 ③自分の周りだけでなく、社会や世界に目を向けていけるような国際教育を目指す。 ④いじめの早期発見、解決を図り、人間関係で悩む生徒をしっかりとフォローする。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 ①高校で95%と高い数字になったが、中学では90%と昨年より5P(ポイント)も減った。 ②全体で88%と昨年より4P向上し、中1では96%と昨年よりさらに改善が見られ、中学生活のよいスタートが切れている。 ③中学はほぼ昨年と同じだが、昨年も一番低かった学年(中3)が今年は74%とさらに2P低くなったのが心配である。 ④全体で88%と2P向上し、中でも中1と中2が95%に近い数字となった。この4項目は目標に近付けた。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③85% ④90% ◆実際到達度 ①93% ②88% ③84% ④88%	①宗教行事の事前学習を宗教の授業だけでなく、教員全体がその意味を理解し伝える。 ②人間関係が薄まる中、行事や共同作業などでその絆を深めるよう指導する。 ③自分中心の発想は、最終的に自分も幸福にしないことを教えていく。 ④クラスだけでなく、クラブでの生徒間の小さなすれ違いを早期に発見し解決していく。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①さらに生徒会やクラブ員が中心となり、挨拶運動の輪を広げていく。 ②クラス、学年の指導を差のないようにして、ルールやマナーを守れる生徒を育てる。 ③賢明の生徒として誇りを持つことによって、自律する生徒を育てる指導を教員が続ける。	①保護者の評価は年々向上して88%になったが、目標値には遠い。中で高3だけが95%と目標値に達した。 ②生徒自身の評価は77%と微増したがそれでも低い。学年比較で最低になることがなかった高3が68%なのは残念である。 ③保護者の評価は84%と微増だが、昨年より学年のばらつきがみられ高2が75%と最も低かった。しかし、今年もさらに数値が上がった教員の90%台と開きがあった。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③90% ◆実際到達度 ①88% ②77% ③84%	①生徒会だけでなく、クラス単位での登校時の挨拶運動に取り組む。 ②教員だけでなく生徒の中からルールを守るよう発信する機会を増やしていく。 ③自律する生徒を育てることを意識しながら、学年間クラス間で指導のばらつきがないよう確認していく。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①生徒全員が授業に集中するために、学習へ向かえない生徒を丁寧に指導する。 ②板書が中心になる授業が減ることから、だからこそ読みやすい字を書き、内容を工夫し続ける習慣を教員が身に着ける。 ③「主体的・対話的で深い学び」の授業を単元のどこかに必ず入れる指導計画を立て実行する。	①生徒の評価が1P下がり84%、昨年95%と高かった中学が高校より4P低い結果となった。教員の自己評価は100%。 ②板書に関する生徒の評価は85%だが、中1は100%と過去にない数字となった。それに対して教員は79%と昨年より10P以上後退してしまった。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価は70%と微増したが、昨年のように飛びぬけて数値が高い学年はなかった。教員自身は77%で3P低くなり、さらなる努力が必要である。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③80% ◆実際到達度 ①84% ②85% ③70%	①集中していない生徒を学習に向かわせるようにしてから授業を始める。 ②公開授業週間に管理職だけでなくお互い参観をして、反省会を持って授業の振り返りをする。 ③すでに「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観し、具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①中学生の頃から進路に向けての意識を高め、新しい時代にふさわしい将来を考えさせる。 ②今後求められる力を生徒に付けるため、教員が授業を主体的活動へ方向転換していく。 ③生徒に進路へ向けて早い段階から意識付けをし、受験への取り組みを早めていく。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは79%であるが、中学が昨年と同じく81%だった。これは低い学年からキャリア教育の成果が表れたと見てよい。 ②全体が82%と3P上がったが、高1の90%が一番高く高3の74%が一番低かった。高3は年々評価が下がっており、しっかり対策しなければならない。 ③レベルの高い学年と言われながら、それが実績に結び付けることができなかった。	◆目標到達度 ①90% ②95% ③国公立15名など ◆実際到達度 ①82% ②82% ③国公立 7名	①全体に対してだけではなくクラス単位で進路の説明などをして、生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②高3のカリキュラムを変更して、大学受験に直結する科目の時間を増やし、実力を伸ばすよう指導する。 ③③様々な受験制度を利用しながら、生徒の進路実現をサポートしていく。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	①初期対応で問題解決を図るために、担当者がその日の内に行動を起こす。 ②学年団や顧問団で情報を共有し、指導に齟齬が出ないようによく相談する。 ③教員が日々の教育活動に追われるだけでなく、プロフィール(目指す生徒像)を意見を出し合って共通の目標とする。	①保護者が学校からの連絡が確実になされているかは84%の評価。教員の自己評価は91%だった。 ②保護者からの相談についての対応は90%と微増したが、今年も高校が中学より7P低かった。 ③教員同士の協力という点で生徒の評価は73%と年々増えているが、厳しい目で見られている。今年も厳しい。プロフィール作りは意見を出し合ってまとめることができた。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③80% ◆実際到達度 ①84% ②90% ③73%	①「ウェブでお知らせ」システムを導入し、保護者との連絡を密にする。 ②管理職、学年団、スクールカウンセラーなどが緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③小さな意見の対立があったとしても、教員が同じ方向にベクトルを向け協力して問題の解決を図る。
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①毎月実施している「いじめアンケート」の情報を見逃すことなく生徒を見守る。 ②教員がさらに言葉遣いに細心の注意を払い、生徒から尊敬されるよう努める。 ③学校に来れなくなる生徒に対して、親身な指導をまず担任が心がける。	①良い友人関係を築いているかの評価は91%と微増した。今年高1が一番高く96%だった。 ②教員が自らの言葉遣いを評価すると95%と高く、これは昨年より4P、一昨年より5Pも上がった。 ③居場所があるかは92%で、今年中高で差はなかった。この項目を加えてから毎年少しずつではあるが向上している。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①91% ②95% ③92%	①「いじめアンケート」だけでなく、生徒の小さな変化に気づきすぐに対応する。 ②言葉遣いの改善を毎日の生活でもっと意識し、生徒の模範となるよう努める。 ③学校に来れない生徒が出ないように暖かく見守り、生徒が安心感を持つようにする。
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	①秋麗祭を生徒主導の形をより深めながらも、内容の見直し、発展を図る。 ②クラブでの自主的な活動が始まっているが、全校生が参加できる企画を考え、何かのボランティア活動をしたと言えるようにする。 ③教員の勤務時間の見直しなど、数々の制限が増える中、本校らしいクラブ活動を作り上げる。	①生徒自身の評価は87%であるが、昨年、中高共最も高かった3年生が今年最も低い結果となった。 ②76%と昨年より3P向上した。最も高かったのは中1で94%だが、これは清掃ボランティア直後にアンケートを取ったこともあるだろう。今年も学年の取り組みの差が表れたのかもしれない。 ③クラブ活動に対する保護者の評価は79%で昨年と同じである。今年もクラブ活動の中心になるはずの高2が69%と最も低い数字になった。	◆目標到達度 ①95% ②80% ③95% ◆実際到達度 ①87% ②76% ③79%	①秋麗祭、クリスマスブローなどの行事を、さらに生徒主導で作りに上げていく。 ②教会典礼歴の待降節、四旬節に合わせて、その精神を理解した上で、実践的なボランティア活動が実行できるよう指導していく。 ③クラブの規定を見直し、練習時間の制限などを明記し、活発なクラブがより生き生きと活動できるよう工夫していく。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	①高校の指導要領も発表されたので、本格的に学校全体も教科も準備を進める。 ②ICT活用教育は進んでいるが、教員の個人差がある。それを改善するためにも教科内で研鑽を深め、授業公開を積極的に行う。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的に行われるよう、カリキュラム作りに取り組む。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は67%と昨年より13Pも下がってしまった。 ②授業の内容を改善しているという教員の評価は今年も100%であった。教員として当然の姿勢であるが、その改善が生徒に実力向上につながらなければならない。 ③小学校の担任が受け持つ「道徳」の検討会には出席したが、系統的な取り組みはできなかった。	◆目標到達度 ①85% ②85% ◆実際到達度 ①80% ②100%	①教務進路連絡会議が中心となり本格的に議論し、準備を進める。 ②ICT活用教育だけでなく、授業の形を大きく変えていく研究を個人や教科でも進め、実践していく。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的に行われるよう、カリキュラム作りをする。

	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	学年別の保護者会の開催や保護者参加型の行事を実施することにより、教育活動の理解を促進する。 宗教行事への参加報告書を作成し、生徒・保護者に宗教行事の理解を深める。 三者面談や個人面談の回数を増やすとともに面談項目を作成し、生徒・保護者にとって相談しやすく、生徒指導についての統一をはかる	肯定的評価が86%あった。建学の精神や教育方針などおおむね理解している。 昨年より10%減少となった。心のケアが必要な生徒について面談しやすい雰囲気づくりに努める必要がある。 HR活動を中心にクラス担任を中心としたコミュニケーション能力の向上や思いやりを持った生徒を育成する必要がある。 昨年より5%とわずかではあるが増加した。レベル別の英語検定や特別活動の充実などさらに満足度を上げる必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①86% ②83% ③75% ④76%	個別懇談・三者懇談を計画的に行う。個別に指導が必要な生徒や保護者については火曜日を有効的に活用して面談を行うことにより、教育活動の理解を深める。また、懇談の内容については教職員間で情報を共有し指導に繋げる。 宗教行事については、全日制の宗教部と協力し事前に資料などを生徒に配布することにより参加を促す。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	生徒登校日にLHRを月に2時間取り入れ、クラスにとって必要な生徒指導を行う。 担任が中心となってクラスの情報や生徒の情報を保護者に連絡し、個々に応じた生徒指導を実行していく。	①24%②52%肯定的評価が76%であった。あいさつはコミュニケーション能力を養う一環として積極的に指導していく。 スクーリング中の態度や、教職員の適切な指導方法について再検討が必要な項目である。また、スクーリングの理解についても調査をする必要がある。 生徒の意識や生活態度・行動などを適切に助言していくための信頼関係の構築が必要であると考えられる。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①76% ②65% ③68%	月に2回のLHRを設定し、担任を中心に生徒指導面について統一した指導を計画的に行う。 外部講師を招き、SNSや命の大切さなどの講演会を実施する。 兼務の先生に生徒の情報を共有する場を設け、生徒との信頼関係構築のきっかけづくりを行う。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	1年間の学び直を通じ、基礎学力の定着した生徒に、標準的な学力を養うための、学習サポートを実施する。 英語検定の受験者数を増やし、準2級・3級の合格者を増やし、2級合格者を輩出する。 スクーリングを充実させるために学習指導計画書を作成するとともに、レポート作成については昨年度の結果をもとに改良を加える。	①35%②59%肯定的評価が93%であった。昨年より4%増加している。今後とも単位修得への意識を高く持ちたい。 肯定的評価が昨年より4%向上した。分かりやすいスクーリングの指導を継続し、学習の意識の向上に努めていきたい。また、学習サポートなどの基礎学力の向上にも努めたい。 学習進度表などを通じて生徒の意欲を高める方策が必要である。また、生徒の将来と学習を結びつけて学習意欲を高める必要がある。英語検定2級合格者を輩出することができた。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①93% ②84% ③74%	学習進度表を計画的に配布し、生徒の学習状況についての理解を促す。 3年間の進路指導計画を行い、各学年ごとの進路希望調査を計画的に実施し、生徒一人ひとりの希望進路の実現を目指す。 英語検定の受験者数をさらに増やし、英語検定2級合格者を複数名輩出する。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	英語検定・漢字検定など各種検定の成果を進路結果に結びつける。 進路指導の動機づけとして大学訪問・専門学校訪問を実施し、高等学校卒業後の進路について明確な目標を定める。 卒業生の状況報告会（ホームカミング）を行い、在校生の進路実現への意識を高める。	肯定的評価が61%となった。日頃の学習活動において具体的な指導システムを検討しなければならない。 大学進学についての意識を高めるため、学習サポート・資格取得が進路に結びついていることを実感させる必要がある。 進路状況や進路結果などを生徒や保護者に配信し、進路に対する意識を高める必要がある。面談などを通じて、生徒の専門性や適性などについても指導する必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①61% ②67% ③78%	学年別および外部講師を招いての進路説明会を実施し、高校卒業後の進路について明確な目標を設定し、学校生活へと結びつける。 進路希望調査やアンケートなどを計画的に実施し、自分の将来を描くことのできる生徒を育てる。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではな	個々の生徒状況およびクラス状況を把握するための生徒状況報告を職員会議で実施し、教職員の共通理解を深める。 兼務の教職員の共通理解のために、専任・兼任	クラス担任を通じて電話連絡やメール連絡・保護者面談などを行い生徒状況や諸問題の解決へと結びつけている。 生徒指導面については、教職員全員で指導方法について共通理解していく必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度	生徒状況報告会を引き続き継続し、教職員間における生徒理解を深める。 生徒、保護者への連絡については配布プリントの受け取り確認や懇談の実施状況など管理職

		く、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	の打ち合わせ会を毎月1回実施し、生徒一人ひとりに対しての理解を深める。	①37%②59%肯定的評価が96%であった。昨年度と同様の結果であり、学院全体で取り組んでいる結果である。	①91% ②76% ③96%	を中心に情報を共有する。
		P l a n	D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすることを大切に やかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	生徒を大切にするための細やかで温かい対応を入学前の個別相談・入試相談・オリエンテーションから行うとともに、生徒一人ひとりの理解を深め、入学後の学校生活を円滑にする。 電話連絡や手紙などを通じて保護者との連絡を密に行い管理職へ報告する。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 昨年度より13%増加した。今後、生徒数が増える傾向において粘り強く指導していく。 昨年度より26%増加した。担任を中心に一人ひとりの生徒の状況の把握に努めた結果であろう。 様々な課題を持つ生徒が多いことに変わりはない。目標到達度90%の結果を残すために、生徒の自己肯定感を高めるための指導を検討する必要がある。	◆目標到達度 ◆実際到達度 ①90% ②90% ③90% ①84% ②96% ③76%	入学前の、個別相談、入試相談、入学試験面接を通じ本人と保護者の理解に努める。また、入学後についてもオリエンテーションを通じてここに合った指導を行う。 生徒にとって過ごしやすい教室やフリースペースの充実を図る。 一人ひとりの生徒に声掛け運動を実施する。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	ボランティア活動を計画・実施し、生徒の奉仕的精神を育成するとともに、地域福祉の推進に努める。 特別活動の内容を再検討し、生徒の興味・関心を踏まえた特別活動を計画する。 ホームページやパネル作成などを通じて特別活動への参加が、生徒の成長に繋がることを伝え参加者数の増加につなげる	活動内容の検討を重ねた結果、昨年度より32%の増加となった。生徒の将来に結びつけることのできる意義ある活動を継続していく。 学校説明会などの学内ボランティアへの参加を呼びかけたが、参加する生徒に偏りが出たため、生徒の参加しやすい学外のボランティアも必要である。 特別活動における情報をホームページで配信し、保護者宛てプリントなどでいち早く参加を募集するなど計画的に行った結果である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①87% ②62% ③93%	特別活動については、さらに内容を検討し生徒の自己肯定感を高める活動を行う。進路・キャリア・コミュニケーションをテーマに活動内容を改め、現在の活動に加えて大学訪問や職業体験も企画する。 ボランティア活動については学外の活動を実施し、他者に目を向ける機会とする。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	研修報告会を実施し、教員同士の豊かな関係性を基盤に、研修で得た知識・技術や経験を継承しながら新たな理論を生み出す。 不登校・起立性調節障害・発達障害など通信制の生徒指導に必要な学内研修を行う。 教員の相互支援関係を構築し、創造性豊かな指導により生徒の指導に繋げる。 大阪府認可通信制高等学校との連携を密に行い、賢明学院高等学校通信制課程独自の教育を計画し展開していく。	通信制にとって新学習指導要領の移行などの情報が手探りの状況であるため、課題を明確にする必要がある。 学習指導要領改訂の方向性などを理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた改善の視点を持つ必要がある。さらに、各部会へ積極的に参加し、情報を収集する必要がある。 「通信制での学習を通じて知識・技能を得たもの」と「社会人になってから必要な力」が何であるかを検討する。大阪府認可通信制高等学校と連携するなど統計的手法で両者にどんな関連性があるか明らかにする必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①70%②68% ③85%	学習指導要領については各部会への積極的な参加や全日制の対応を把握し、通信制課程でも活用する。 通信制校長会・通信制実務者会議などを通じて、通信制課程における学習指導要領の現状を把握し、教職員間での情報を共有する。 今後、多くの卒業生を輩出することから社会に求められる通信制の在り方を検討し、在籍している生徒に教育実践していく。

評価責任者：校長 大原 正義

2018年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

委員名	小上 廣之	嶋田 豪洋	藤木 利典	久保 善見	長谷川 幸則
実施日	第1回 5月26日(土)	第2回 8月25日(土)	第3回 2月23日(土)	第4回 4月30日(火)	

	重点目標について	目標達成の為の取組について	到達度及び自己診断結果について	今後の改善方策について
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の増員をしなければ、資金的に運営できないし、教育の質も保てないのではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校入試に向けての教育。 ・「保護者へ対応」でHPを毎日更新とあるが、週1回の更新でよいのではないかと。教員への過度な負担となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員の資質向上」で、幼小連携活動と教員の資質向上との関係が分かりにくいので補足説明が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴のある園にする必要がある。 ・建物等の外観は見直すべき。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の増員。 ・幼稚園からの全員入学。 ・「教員の指導力向上と授業改善」の評価指標⑦にある「学級経営力向上」とは何か。「経営」という文言に違和感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私学らしい教育の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の重点目標についてのところで、整理整頓の習慣は高く評価できる。児童のときにこの習慣を徹底してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外への語学留学の機会を増やす。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校生徒の増員。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル教育に力を入れる。 ・理数系の大学入試に向けての教育。 		<ul style="list-style-type: none"> ・英検,TOEIC,TOEFLにもっと力を入れてほしい。 ・推薦大学の数を増やす。
総括	<p>重点目標・評価指標は、一定の年数が経過すれば見直しが必要になると考えられるが、評価活動を一度総括して再構築することを検討すべき。抽象的な表現や「業界用語」が目につくので、具体的にわかりやすい表現に努めてもらいたい。挨拶できない大人は評価されない為、挨拶に対する指導はぜひ続けてもらいたい。</p> <p>中学高等学校及び通信制課程の学力レベルアップについては成果が出ていると感じる。また、生徒一人ひとりが楽しく生き生きと学校生活を送れていることは評価できる。引き続き生徒一人ひとりに目を向けた教育指導,サポートをお願いしたい。小学校はカトリック教育として道徳心を養う指導を強化してほしい。また、幼稚園保護者及び小学校保護者にも道徳教育に触れる機会を増やしてほしい。具体的には中西理事長を中心としてシスター方から直接お話を聞く機会を作りたい。</p>			